

「竹島の日」記念式典  
竹島・北方領土返還要求運動県民大会

- ・日 時 平成20年2月22日(金) 13:00～16:30
- ・会 場 島根県民会館 中ホール 松江市殿町158

主 催

島根県／島根県議会／竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議

講演

「変化するプーチンのロシアと北方領土」

～日本が抱える領土問題、竹島問題との関連～

元東京経済大学教授 兵藤長雄 氏

# 論点

北方領土問題に対するロシアの姿勢は、硬化の一途をたどり、日ソ国交回復交渉の当時（1956年）に戻った。歯舞と色丹の二島引き渡しによる最終決着しかないという姿勢に転じている。それゆえ、国後と択捉両島を領土交渉の対象にするという明記した1993年の東京宣言はロシアにとって都合となり、プーチン大統領は、この文書を意図的に無視するため、「日ソ共同宣言」を交渉の最重要文書と強調し始めている。

## 北方領土交渉



雄長 元外務省欧亜局長  
藤兵衛

ソ連議長などを経て1990年から93年まで欧亜局長。駐ポーランド大使、東京経済大学教授などを歴任。71歳。

背景には、経済の好調、実質的なプーチン独裁体制の確立、大國ナショナリズムなどがあ

# 「四島返還」の原点戻れ

プーチン氏は、3月の大統領選挙後に首相に就任するが、実質的なプーチン支配は二分統、北方領土に対する姿勢が変わることは思えない。

ロシア側の姿勢は、日本国内が迷走し、一部の政治家などが具体的な協議や交渉論を出していることとも無関係ではな

る。プーチン氏は、3月の大統領選挙後に首相に就任するが、実質的なプーチン支配は二分統、北方領土に対する姿勢が変わることは思えない。

この基本的理解に欠けた議論は、すきまを、領土問題を最終決着するのには平和条約でもってこれを忘れない。

また、「等面積二分割」を唱える論者は、この方法で中露国境の紛争が解決された例を引用するが、北方領土をめぐり並ぶ議論の中心は、この問題の

「い」といふせず「島返還論」や「等面積二分割論」が語られる。プーチン側は「毎

だ」といふは認められないとの立場から出発したはずだ。

本質への理解を欠いている。中国や独仏の国境線は、歴史的にも変更を重ねている。固有の領土であり、国家の尊厳の問題である北方領土とは同列には論じられない。損得勘定で解決する問題でもない。

背景には、経済の好調、実質的なプーチン独裁体制の確立、大國ナショナリズムなどがあ

ロシアは資源・エネルギー輸出から脱却し、先進的な産業立国へ戦略を転換し始めている。日本にはハイテクやITや省エネ技術など中国にない多くのものがある。

領土問題解決の道は決して閉ざされていない。交渉には潮時があるが、いまだ交渉の機は熟してこない。機が熟すまでの間は、国後と択捉が日本の尊厳そのものの問題である。これをロシアに明確に主張し続けることが肝要である。今は、疲弊しつつある国内体制の再構築を進めつつ、目標を高く掲げ、いっしょに腰を据えて戦える時である。

第3回、「竹島の日」記念式典 於 島根県松江市 (2008.2. 22)

日韓新時代と歴史問題の処理 拓殖大学 下條正男

### 1. 韓国の新政権の誕生と竹島・歴史問題の克服

(1) 盧武鉉大統領時代の歴史問題は「竹島の日」条例から

(2) 町村元外相の外務大臣会見記録 (2007年8月)

(3) 島根大学名誉教授の活躍

① 島根県は国際性なし (韓国側の広報)

② 泥棒の論理 (2008年1月18日、韓国側の教育映像)

③ 竹島外一島之儀、本邦関係無之 (1877年)

### 2. 「竹島の日」条例から今日まで

(1) 潘基文通商外交相、「日韓関係よりも上位概念」

(2) 盧武鉉大統領と「東北アジアの平和のための正しい歴史定立企画団」の発足

(3) 内藤正中氏による外務省のホームページ批判

(4) 「竹島の日」と外務省のホームページ→2006年度版「地理」「公民」に採用

(5) 中国の反日暴動、教科書歪曲→日本の国連常任理事国入り阻止

(6) ロシアと北朝鮮の外交カード化

(7) 日本海呼称問題と2006年4月の海底地名問題→海上保安庁、測量船派遣。

(8) 森元首相と排他的経済水域問題→6月、韓国側、基点を鬱陵島から竹島へ

(9) 東北アジア歴史財団、歴史問題の政治利用

### 3. 韓国側の歴史的根拠

(1) 固有の領土論と侵略論

① 『公文録』(1877年)「竹島外一島之儀、本邦関係無之」太政官指令

② 『勅令第41号』(1900年)第2條、鬱島郡の行政区域内に竹島と石島を明記

(2) 『公文録』の問題点

① 文献上の竹島と松島 (二つの鬱陵島)

② 島根県提出の「磯竹島略図」の竹島と松島

③ 明治10年代の地図に描かれた竹島と松島

④ 林子平『三国接壤之図』(二つの鬱陵島)、長久保赤水『大日本輿地路程全図』

⑤ シーボルトの『日本図』、竹島と松島 (鬱陵島) → 1849年、リャンコ島

⑥ 1880年、松島確認、天城艦 (松島は鬱陵島、竹島は北方の竹嶼) 『竹島考証』

⑦ 1882年、李奎遠の『鬱陵島外図』

⑧ 1883年、内務少書記官檜垣直枝の「鬱陵島出張復命書」

⑨ 1711年、『鬱陵島図形』、18世紀の『鬱陵島図』、1899年、『大韓全図』